

平成 22 年 7 月 14 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中齋塾 東京フォーラム

### 平成 22 年 第 7 回講話

#### 嘘をつかない

最初に、いつもの質問を致します。

民主党は大きな嘘をついています。政治家が大きな嘘をついたり、小さな嘘をついたりしている世の中で、我々中齋塾フォーラムは、嘘をつかないでゆこうという非常に稀有な集まりでございます。嘘をつかないということを標榜し、嘘をつかない日常を送り、その検証をするという集りは、なかなかこの世の中にありません。民主党にしても自民党にしても、国民に対して嘘をついたかつかないかということが一番最初に検証してもらおうと、日本の国は少しは良くなるだろうと思います。そこらへんを含めてお聞きします。

昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

ちょっとしたリップサービスは簡単に忘れます。人さまと約束をした場合、忘れないようにする努力が要ります。今日は『なぜかボケない人のちょっとした習慣』という本を紹介しようと思ってまいりました。回覧を致します。

ちなみに私は嘘をつかない努力として、約束をしたらメモをとる癖をつけています。メモをとった後はそれで安心するのではなくて、夜寝る前にメモしたものを集めて他の紙に書き写す癖をつけました。忘れないようにするには、やはりちょっとした努力が要ると思います。

昨日一日、良い日だったと思う方？

(・・・まあまあ、手が挙がる)

もう一つお聞きします。

有難うと言い、人さまから有難うと言われた方？

「有難う」とは、あまり気にしないで無意識で言っていますが、人さまに何かしてあげないと「有難う」とは返ってきません。「有難う」と人から言われるような日常生活をしているかどうか、これも言行省察で考えると良いと思います。

余分な事を聞きますが、先日の参議院選挙に皆さんは行かれましたか？ 昨日、ある集ま

りで同じ質問をしたところ、行かなかった人が数名おりました。行くつもりだったが、用事がたて込んでしまっ行って行けなかったという理由でした。確信犯ではないわけです。ただ自分で何かしようと思ったら、した方が良いでしょう。しないと、何か後にわだかまりが残ります。

## 今日の論語

論語は非常に良い内容が詰まっています。しかし読む能力がないと実につまらないものです。どうすれば読む能力がつくか。日本人が論語を身につけるにあたって、伝統的な習い方は素読です。小さい時に素読をさせられたわけです。意味など分からない、ただ声を出して読む。その繰り返しを小さな時からやって、自然と言葉が出てくるくらい暗唱させられた。暗唱するつもりでなくても、素読を繰り返していると自然と覚えてしまう。それが論語に限らず日本の古典を勉強する時の勉強の仕方でした。

私どもが論語を学ぶ時に、入門はとにかくすらすら読めるようになることです。我ながらよく読めるようになれば初級は合格です。

中級になると、論語の中で良い言葉を見つけて、意味を調べます。そして人様に紹介したくなる。一生涯使おうではないかと思う言葉が見つかってきます。私の場合は、「利によりて行なえば、怨み多し」で、この言葉が染み込んでいます。近代資本主義の父と言われた渋沢栄一は、「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉を一生涯貫き通しました。ですから何か良いと思う言葉を見つけて、人さまにも解説でき、勧められるようになれば中級合格です。

上級は、読んでいるとスクリーンで見ているように状況が浮かぶ。映画を見ているような感じで、文章が入ってくる。耳で聞いても、眼で見るように見えてくる。そういう状況になれば上級です。

では、解説を致します。本日の論語は公治長第五 19～27です。

【十九】 きぶんし み おも のち おこな し これ き いわ ふたた こ か 季文子、三たび思おもいて後のちに行おこなう。子し之これを聞きいて曰いわく、再ふたたびせこば斯かれ可かなり。

季文子は魯の国の宰相です。季文子が国史として晋の国に出かけていく時に、情報をとったところ、晋の君主の襄公が重病で今にも死にそうだということが分かった。自分が晋の国に行く頃は葬式になるかもしれないと、判断に困って何度も何度も考えてから喪服を用意して葬儀に参列する準備をして出かけた。

孔子がそれを聞いて、一回で考えが決まらなかったら、二回考えれば良い。何度も何度も考えていたら間に合わなくなると言いました。

君子は果断を尊ぶという言葉があります。小さいことは色々に気配りをしなければ抜けることがあるけれども、大きな問題はせいぜい二回考えれば良い。一度考えてどうかかなと思ったら、二回目に決めなければ決まらないということです。

これを今に置き換えて考えれば、今回の選挙で、菅さんは何度消費税の言い訳をしたことでしょうか。支持率が36.3%に下落したのは、言い訳をしたからだと思います。「消費税の見直しをやります」と言い切っていれば、こんなに下がることはなかったと思います。言を左右にした結果が今回の民主党の敗北に繋がったと思います。

ただ、敗北とはマスコミが言っているのもあって、民主党も菅さんも敗北したとは言っていない。負けたとは思っていないのですから、責任論を言われても、どうして責任をとらなければいけないのかということになります。負けていないのですから、菅さんは辞める必要がないと思っているのです。マスコミが勝手に「敗北・大敗」と言っているだけで、民主党そのものは敗北宣言をしていませんから、負けたとは思っていないわけです。こちら辺がおもしろいところで、マスコミが言ったことが世間で通ってしまうという風潮は、怖いと感じます。

論語を読んでいて、次から次に色々な連想をしていくことは楽しいことです。現代に置き換えて連想していくのは、結構楽しいものです。ぐるっと回って、又もとの文章に戻ってくる。そうすると、現代に置き換えるとどう考えようかという習慣、考え方が身につけてきます。そのように論語をお読み下さい。

【二十】 しいわ 子曰く、甯武子、邦 ないぶ 道有れば くに 則 みちあ ち知なり。邦 すなわ 道無ければ ち 則 くに ち愚なり。其の みちな 知には すなわ 及ぶべきなり。其の ぐ 愚には そ 及ぶべからざるなり。

甯武子は衛という国の家老です。

孔子が言うには、甯武子は国が治まっている時はその知力を十分に発揮し、国が乱れてきたら愚か者を装う。国が治まっている時にどういう知恵を出せば良いか、それは私も自信があるけれども、国が乱れている時に国をきちんとさせようということには、なかなか力が及ばない。

日本は今、道有りでしょうか。それとも道無しでしょうか。表面的にはきちんと治まっ

ているように見えます。しかし玉ねぎの皮を剥いてみると中が腐っていて、更に剥くと又腐っている。1枚剥き、2枚剥きするうちに腐っている部分がどんどん増えていく・・・これが今の日本の状況です。薄皮を剥いたなら、かなりの部分が腐っていると思います。

孔子であっても、今の日本の状況を解決して良い国にしようというのは難しいだろう、と言っているようにこの文章を読みます。

【二十一】 子 陳し ちんに在りて曰く、帰らんか、帰らんか。吾党わがとうの小子しょうし 狂簡きょうかんなり。斐然ひぜんとして章しょうを成せども、之これを裁さいする所以ゆえんを知らず。

「帰らんか、帰らんか」の部分は、フーテンの寅さんが望郷の念を抱いたような感じがします。孔子は色々な国を回って自分の考え方を採用して貰い、自分の主義主張や理想をその国で実行したいと思って諸国を歴訪したけれども、もうどの国も私を受け入れてくれないとがっかりして、故郷に帰りたいなという気持ちで「帰らんか、帰らんか」と二回繰り返しています。

孔子が陳の国に滞在している時に言いました。

帰ろう。帰ろう。我が故郷へ。故郷の若者たちは、志は大きいけれども性質は片寄っている。色彩豊かな美しい綾模様の布があるけれども、きちんと裁断して服にする方法を知らないのだ。

故郷の若者たちは志だけはあるけれども、何をどうしたら良いか分からない。暴走するエネルギーはたっぷりあるが、使い方を間違えるととんでもない事をしてしまう。世の中の為になる方法を知らない。私が故郷に帰って、若い仲間たちを指導して、世の中の役に立つ方法を教えよう。教育をしに故郷へ帰ろうではないか、と解釈します。

現代でも似たようなことは沢山あります。最近、大学教授が増えています。学校の先生は試験を受けて合格しなければなれませんが、大学教授は試験がないのです。大学でものを教えるには資格が要らない。教授になるのは簡単です。最近、大学教授になっている人をみると元高級官僚や元政治家、元自治体の長といった人が多い。皆、腰掛けでやっているように見えます。これは自分の理想を一所懸命世の中に広めようと思ったけれども出来ずに、故郷に帰って教育をしようと孔子が志したものと、似て非なるものです。

地方の長を終えて次は国政に出ようと思うけれども、時期が来るまでとりあえず大学の教授になっておこうという人たちが増えていて、自分の古巣で出来なかったことを、教育という名を借りて孔子と似たような行動をとっているように見えます。ですから最近増え

ている大学教授はどういう考え方で教えているのか、よく見て判断する必要があると感じます。

このように論語に書いてあるものを皆、現代に置き換えてみる。論語を活用すると、判断基準がすっきり自分の身体の中に入って来ます。判断基準が身に付いて来ると、論語はどんどん面白くなってきます。

【二十二】 しいわ 子曰く、はくい 伯夷・しゆくせい 叔斉は きゅうあく 旧悪を おも 念わず、うらみここ 怨是を用て もつ 希なり、まれ 。

孔子が言うには、伯夷・叔斉は悪いことをしても、その人が良いことをしたら、昔の悪いことは思い出さない。他人の恨みを買わない人であった。

日頃から人のやった悪さを追及しなければ、恨みを買わないで済みます。あまり他人を叩くものではないと感じます。人さまに忠告をする時には、よほど気をつけないと恨みを買うことになります。

伯夷・叔斉は兄弟で孤竹という国の王子です。次の君子をお互いに譲り合って、二人とも国を去った。その後、殷の紂王に仕えたけれども悪政にあきれてすぐに辞めて、周の武王に仕えました。武王が殷を攻めた時に、伯夷・叔斉は暴力で人を攻めるのは止めた方が良くと諫言したけれども聞き入れられなかったので、首陽山という山にこもってしまった。そして蕨を取って命を繋いでいたけれども餓死をしてしまったと伝えられていますが、餓死をするということで抗議をしたのではないかと思います。

終戦後の日本は、国から配給される米を食べて生きている時代がありました。皆、ヤミ米を買って飢えを凌いだのですが、ヤミ米は法律違反だからという理由で配給米だけを食べて餓死をしてしまった裁判官がいます。その息子さんは、たまたま私の同級生でした。その裁判官は自分の主義主張を貫いて餓死をすることによって、日本の政府や社会に対して提言をしたのだと思いますが、残された家族は後ろ指をさされたり、相当苦労したようです。

【二十三】 しいわ 子曰く、たれ 孰か びせいこう 微生高を ちよく 直なりと い 謂う、ある 或ひと す 醴を こ 乞う、これ 諸を そ 其の となり 鄰に こ 乞いて これ 之に あた 与う。

孔子が言うには、なぜ微生高が直の人だと言えるのか。或る人が微生高にお酢を貰いに行った。微生高は自分の家にはなかったなので、隣の家にお酢を貰いに行き渡した。

無い時は無いと言えば良いのに、隣の家から貰ってきて、自分のもののように渡して恩恵を施すのは正直者とは言わない。

「直」とは、徳行です。有を有と言ひ、無を無と言ひ、是を是と言ひ、非を非と言ひの徳です。微生高は直の人として名高かったので、孔子が批評しているのです。

隣にお酢を借りにいくような日本の下町の美風は、だんだん少なくなっています。今、そういう美風が世界中に残っているのは、ブータンだろうと思います。ブータンは国王が「我が国民はすべて幸福である。又、それを目指す」と宣言をしました。日本もかつてはそれが実現できていました。江戸時代後半、日本に来た外国人が故国に当てた手紙に、「日本人は素晴らしい。貧乏ではあるけれども心が清々しくて氣高い。実に素晴らしい民族だ」という表現があります。世界中、歴史的に眺めてみても、江戸時代の後半の日本は、世界に冠たる心根の氣高い素晴らしい国だったと思います。「直」というものが、ごく当たり前に行われていた時代が日本にはかつてあった。そういうものを復活したいものですね。嘘をつかないということをつと実践していけば、だんだんそういう方向に行くと私は信じています。

【二十四】 しいわ こうげん れいしょく すうきょう さきゅうめい これ は きゅう またこれ は  
子曰く、巧言・令色・足恭なるは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。  
うらみ かく そ ひと とも さきゅうめい これ は きゅう またこれ は  
ず。怨を匿して其の人を友とするは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。

左丘明は昔の賢人で、春秋左氏伝を書いたと言われています。丘は、孔子のことです。

孔子が言うには、口が達者でよく回る。表情はニコニコしているけれども眼が冷たい。ばか丁寧に恭しくする。左丘明は、こういうことは恥ずかしいからやらない方が良く、仲間にもしたくないと言っている。私もまた、こういう人は恥ずかしいと思う。

腹の中で恨みを隠しながら、友達になってニコニコしている。左丘明は、これは恥ずかしいことだし友達にはしなくないと言っている。私もまた、そういう人と付き合うのは恥ずかしいと思う。

自分の友達を10人くらいずらっと並べてみれば良いでしょう。親友、心友、遊び友達・・・色々な友達がいると思います。どういう理由で付き合っているのか、一度、友人も棚卸しすると良いでしょう。自分自身も友人に対してどういうことをしているか考える。約束を破り続けていれば、当然、自分も棚卸しされるはずで。

【二十五】 顔淵・季路侍す。子曰く、盍ぞ各爾が志を言わざると。子路曰く、願わくは車馬衣裘、朋友と共にし、之を蔽るとも憾むこと無からんと。顔淵曰く、願わくは善に伐ること無く、勞に施ること無からんと。子路曰く、願わくは子の志を聞かんと。子曰く、老者は之を安んぜしめ、朋友は之を信ぜしめ、少者は之を懐かしめんと。

顔淵と子路（子路）が孔子の傍に立って会話しています。

孔子が「どうだ、お前たち。自分の志を言ってみないかい」と水を向けました。

子路は「良い馬車、絹の服や軽くて暖かい狐の毛皮を友達と共有して、お互いに良い付き合いをしたい。仮に、馬や衣服がボロボロになっても文句を言わない。そういう人間でいたい」と言いました。

顔淵は「善行を自慢しない。面倒なことを引受けても、恩を着せない人間でいたい」と言いました。顔淵は日本でいえば宮沢賢治を思い出して戴くと良いでしょう。

子路が、「先生はどうしたいのですか」と聞いたので、孔子が「お年寄りには安心感を与え、友達とはお互いに信じて交際をしたい。子供にはなつかれて良い方向に導いていきたい。これが自分の希望である」と答えました。

年寄りはどういうことを好むのか、よく調べていないと簡単に安心させることは出来ないと思います。友達と信頼し合うというのは、小さな約束を守り合うことが肝心です。小さい子になついてもらうというのは、今のばら撒き政策ではどうにもなりません。

【二十六】 子曰く、已んぬるかな。吾未だ能く其の過ちを見て、内に自ら訟むる者を見ざるなり。

孔子が言いました。もうこの世は終りだなあ。周りを見渡すと、自分が過ちをして失敗したなと思った時に、心の内で反省して改めようとする者がほとんどいない。

過ちがあっても自分で認めない、反省して改める者も少ないと孔子が嘆いています。

これは、民主党そのものです。先ほど申しましたように、民主党は失敗したなと思って、敗北宣言をしません。

【二十七】 子曰く、十室の邑、必ず忠信なること丘が如き者有らん。丘の学

このし  
を好むには如かざるなり。

孔子が言うには、わずか10軒の家庭しかないような小さな村であっても、必ず私のように学びたいと思う人たちがいるはずだ。しかし私のように学問を好んで継続し続ける人間は見たことがない。

学びたいと思う人間は沢山いるし、又、学んでいる者も沢山いる。けれどもそれを一生涯続けるという人間は聞いたことがない。私はそれが出来る。お弟子さん達は、そこが先生の大したところなのだと説明をしています。

### 足るを知る

中斎塾フォーラムの基本哲学は知足（足るを知る）です。嘘をつかないというのを突き詰めていくと、<ほどほどにしよう>という考えに当たります。会社も欲を出して右肩上がりでぐんぐん伸びていくと、途中で壁にぶつかって駄目になる。歴史の証明するところでは、日本の国を再建していく時の大きなキーワードになるのが、知足（ほどほど）という考え方だと思っています。

### 言行省察の法

今日のテーマは三省（言行省察の法）です。「言行省察の法」という言い方をしたのは渋沢栄一です。『論語講義』の中にあります。渋沢栄一は論語の三省という言葉から、自分で「言行省察の法」という言葉を考えついて、実行しました。

この言行省察の法を今に活かすにはどうしたらよいかと考えて、中斎塾フォーラムで毎回恒例の質問をするようにしました。私は夜寝る時に必ず、今日は嘘をつかなかったかなと思い出して、嘘をつかなかったと思うとホッとします。嘘をつかなかったか・良い日だったか・有難うと言い、有難うと言われたか・運動はしたか（今は、1日1万歩歩くようにしています）を確認してから眠るのが習慣になっています。そしてもう一つは、明日は一日良い日だったかなと思えるかどうかを考えながらベッドに入って、それが上手く想像できたら、良かったと思って眠ります。明日のことを完了形で考えるのがポイントです。これらは渋沢栄一の言行省察の法からきています。

渋沢栄一は今日一日誰と会ってどういう約束をしたかを一つひとつ思い出して、満足して眠ったそうです。それを繰り返して自分自身の生活習慣にしました。その結果として、

記憶術が凄まじくアップしたと書き残しています。世間では渋沢老人の記憶術と喧伝されています。

### 年をとって必要なこと

今日ご紹介する書籍は、『なぜかボケない人のちょっとした習慣』という本です。斎藤茂太さんというお医者さんが書いたものです。私は毎月一回「深澤賢治の世界」というホームページを更新していますが、その中で「心に残る言葉」を必ず入れています。読んでいて良い言葉だなと思った文章を書いています。たまたま今回はそこに紹介した本を取り上げました。とてもおもしろい本ですので、少しご紹介します。

ボケない人には共通項があるようです。年をとって必要なものとして、次の3つがあるそうです。

#### 1. やりたい事がある(趣味)

年をとるとやりたいことがなくなる人が多い。だからやりたいことを常に持つように努力する必要がある。趣味を持つことだと書いてあります。遊びを生み出す三原則は、自分の意思で自由にやりたいと思うこと・非日常的であること・利益・私欲でやらないことだそうです。

その通りだと感じました。日本人には凄く多いと思いますが、仕事が趣味の人は危ない。仕事が趣味の人が定年退職すると、やることがなくなって濡れ落ち葉になるか、あの世に逝ってしまうか、いずれにしても趣味が仕事というのは怖いと思います。

私が趣味を作っておかなければいけないと感じたのは、50代なりたての頃です。人さまに迷惑をかけないで、自己満足で良い。多少人さまに役に立つような趣味が欲しいと思っていましたら、5年前に詩吟の先生にめぐり合って、すぐに弟子にしてもらい詩吟の世界に入りました。詩吟は人さまに迷惑もかけないし、健康にも良いと思います。

#### 2. 食欲がある

ただ若い時と同じように食べるのはよくない。食べ過ぎになります。私は今、食欲はありますが、食べ過ぎないようにしています。よくカロリー計算をして食べると云いますが、私は最近、グラムを量って食べています。体重を落そうと思って、1ヶ月に1キロのくらいのペースでとめています。いずれにしても自分でコントロールしながら、食欲を満足させることが肝心です。

#### 3. 好奇心を持つ

好奇心を持つとメモを取ります。メモを取ると寝る前にそれを集めて、他の紙に書き写

す。そうすると忘れません。

好奇心でお話すると、私の場合どうしても経済についてお話しておこうと思います。

日本の経済は民主党がどんどん悪くします。少数政党が乱立しましたから、更に日本の国全体を悪くすると思っています。以前からお話していますが、国債が紙くずになるのは間違いないと思います。お金も紙くずになる。だんだんそれが近づいてきていると思っています。経済は更に悪化し、そのうち食べるものも素直に手に入らなくなる時代が来る。日本で分かりやすいのは、終戦直後の時代を調べればよい。私はそれが再現すると思っています。

非常に大きな教訓だと思いますが、ソ連がロシアになった時には餓死した人が2000万人以上出ています。これは実際にロシアに行って調べてきましたが、自国の通貨であるルーブルで1億円持っていた人は、それが紙くずになりましたから、いっぺんに貧乏人になってしまった。1億円をアメリカに持って行ってドルに替えていた人は、ソ連がロシアになって、ほとぼりがさめて換金したら7000億円に化けた。ソ連の成金は、そういう具合で生まれました。高級官僚や、やくざのような人たちはそういうやり方をしていました。いずれ日本でも起こり得ると思っています。

私が今まで外国に行ったのは、経済破綻を起こした国がどうやって乗り越えたか、それを見ようと思って回りました。これから回ろうと思う国は、自分の口にあう食事を出してくれる国はどこか、見つけようと思っています。タイムリミットが大分近づいてきていますから、拠点を作っておかねばいけないなと感じて最近は過ごしています。いずれにしても経済が凄まじく悪化するの、来年の後半です。あと1年ちょっと余裕があると思っています。

お時間でございます。これで終了に致します。有難うございました。